

## 「夜桜お七」と「お七夜」の関係は？

♪いくら待っても来ぬ人と、死んだ人とは同じこと＝夜桜お七の1節

### 自己の死は、意識の途絶…他者から見える死は、関係の途絶

「生保生活は死んでも同然」の意味は？

人の死は、意識の途絶であると思われまます。これは、あくまでも本人にとっての話です。

「じゃあ、寝ているときは、死んでも同然か」という人がいるかもしれませんが、寝ているときも、夢を見た記憶が残ることでもわかるように、意識が途絶えるわけではありません。

ただし、これを書いている人間は、死んだことがありませんので、死んだあとに、肉体と分離した意識が継続して存在しえるかどうかについては、何も言うことができません。死後のことは、それぞれの好みで考えてください。

とりあえず、生と死を分ける一般的な基準は、肉体の機能の途絶えと意識の途絶えであるとしまます。脳死の議論を別にして。

ややこしいのは、人の「意識」は、「記憶」と分離できないことです。

自分が自分を自分として初めて認識したときは何時か、というと、さかのぼれる限りたどった記憶の、

思い出せる最初の時点です。そのとき以後、自在に思い出せるかどうかは別にして、今、生きている現在まで、意識と記憶の継続が、あなたの「生」を証明することになります。

何がややこしいかというと、さかのぼれる記憶の源点、他者との関係から生じていることです。その他者は、父母兄弟、じいちゃんばあちゃん、養い親、近所の人、犬猫その他モロモロを含みます。

人は誰でも、他者と取替えようのない唯一性を持つといわれますが、その唯一性は、自己単独の孤独な存在であることを意味しているわけではありません。

自己が、記憶を基盤とした意識の継続により成り立っているものであり、記憶が、他者との関係性から始まるものであれば、自己は、最初から他者との関係を含み込んで成り立っていることになります。

生まれて7日目の夜に名をつける行事を「お七夜」といい、平安時代から続く民俗だそうです。「命名されることにより生児は一人前の人間として社会的にその生存権を認められる。」

で、「ややこしき」ですが、個人の成り立ちが、記憶と意識の継続であることよって、生死の基準があやふやになることです。人の死への恐れは、肉体の死への恐れではなく、自己の存在基盤である関係性の記憶・現実を失うことへの恐れであるのではないか、と思われまます。

この意味では（関係性を軸にすると）、ある人の死を決めるのは、他者であることになります。誰かが死んでも、「あの人は、私の記憶の中に生きている」といいます。逆に、演歌「夜桜お七」の一節のように、生きているのに死んだとみなされることもあります。釜ヶ崎では、三日見ないと殺されてしまう、死んだことにされてしまう？

「生活保護による生活は死んだも同然」という人がいます。この場合の死は、肉体の死ではないことは明らかです。

生活のパターンの変化にともない、野宿・夜間宿所の生活の現状で形作られている人とかかわりが無くなる（死）と思ひ込み、新しい生活の中での人との関係性の再構築（生）に見通しがつかない、ことを、意味していると思われまます。

「人」の本質は、意識・記憶の継続ですから、「人」は保守的です。生活変化の選択は、他者の介入・強要がないとなかなか出来まません。未知の未来に踏み出す目の前に、三途の川が見えているといえるのかも・・・。見る前に飛べ！

生活保護は、無差別平等、困窮の事実に基づいて、誰でも（永住権を持つ外国人を含む）活用することが出来ます。65歳以上でなければ、あるいは病気でなければ受けられない、というのはウソです。

\*以下は広島大学看護学科の論文集からの引用です。－育児と民俗慣習の研究

明治の中頃まで農耕を主としてきた日本では、自然風土は人間が支配し制圧するものではなく、人間生活と対立するものではなかった。自然に対しては〈恐れ〉と〈慎み〉をもって、山、海、川、石、風、雨、樹木、動物など、あらゆるものに〈神〉がいるとする信仰をもっていて、種を蒔き育て収穫することは自然との協力・協調作業であり、〈恵み〉に対し素直な感謝の念をもっていた。

子供の出産・育児においても、〈自然〉と〈神〉に深い恐れと慎みをもって対してきた。出産ともなう危険が大きく乳幼児の死亡率も高かった時代には、〈祈祷〉や〈呪術〉に頼ることが当たり前であったが、人間の一生の〈はじめ（乳児期）〉と〈おわり（老年期）〉には、どうしても他人の力を借りなければ生きて行けない弱い時期があり、周囲の人間同士がお互いに協力し連帯することが必要であることを身にしみ知っていた。……………

〈名付け〉命名されることにより生児は一人前の人間として社会的にその生存権を認められる。名前は普通は父親が付けるが、産婆や小福者、有力者などに頼んで付けてもらう場合もある。